

令和六年度埼玉県戦没者追悼式 式辞

本日ここに、戦没者御遺族並びに齊藤邦明埼玉県
議会議長をはじめ、埼玉県議会議員、市町村長の
方々など、多くの皆様の御列席を賜り、埼玉県戦没
者追悼式を挙行するに当たり、謹んで哀悼の誠を捧
げます。

顧みれば、先の大戦から七十九年の歳月が過ぎま
した。この間に、我々は荒廃した国土から立ち上が
り、幾多の困難や悲しみを乗り越え、今日（こんにち）
の平和と繁栄を築き上げてきました。私たちの郷土
埼玉も、豊かな自然と都市部の賑わいを併せ持つ可
能性のあふれる県として、人口七三三万人の県民と
共に力強い発展を続けております。

他方、現在私たちが当然としている平和な日々
の礎には、遠い異郷の地において、祖国の安寧あんね
い)を思い、故郷の家族を案じつつ命を落とされた
多くの方々や、かけがえのない御家族を亡くされ、
癒されることのない深い悲しみを抱えてこられた
御遺族の皆様が存在があることに思いを致す時、心
から哀惜の情を禁じえませんが。

全ての戦没者や災禍に斃(たお)れた方々の御冥福
を心からお祈りするとともに、これまで 幾多の御
苦勞を乗り越えられた御遺族に、心からの敬意を表
します。

世界に目を転じますと、今でも戦争や紛争は各地
で起きており、多くの人命が犠牲となっています。
戦争は遠い過去の出来事ではなく、我々のすぐ隣に
あるものです。

平和は、ただ祈っているだけでは実現しません。
力強い意思と不断の努力により、注意深く守り育て

ていかなくはならないものです。

そのためには、我々が今享受しているこの平和と繁栄が、戦没者の尊い犠牲と御遺族の皆様をはじめとする多くの方々の懸命な努力によって築かれたものであることを今一度思い起こす必要があります。

平和を守り、安心・安全に過ごせる社会を維持し、次の世代へ引き継ぐことは、如何に難しくとも、今を生きる我々の責務であります。私は、祖国の安寧を希求し続けた戦没者の強い思いを胸に刻み、未来に向け平和な社会を守り、つなげていくことに全力を尽くしますことを、御霊を前に、改めて固くお誓い申し上げます。

結びに、御霊(みたま)のとしえに安らかならんことを心からお祈り申し上げますとともに、御遺族並びに御参列の皆様御多幸を祈念申し上げます。式辞とさせていただきます。

令和六年十月二十六日

埼玉県知事

大野 元裕